

# 数と計算①

第2学年

10000までの数

## つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

十進位取り記数法について、位ごとのまとまりとして正しく理解できない。



三千九百二って392でしょ？

位ごとのまとまりが意識できていない。

100を32個集めた数は、0を2つ付ければいいから、3200。



計算することに意識が向き、数のまとまりとして考えられない。

## 単元の概要

### 目標

十進位取り記数法に基づいて数の表し方や大小を考  
えることができる。

### 内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- **10000未満の数の表し方**
- **100を単位とする数の相対的な見方**

## 学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	分数×分数	→ 分数×分数の意味を理解して計算することができない。
第5学年	分数のたし算	→ 通分をすることなど、異分母の加法や減法の意味が理解できない。
	通分	→ 公倍数を用いて通分ができるが、その意味が理解できない。
第4学年	分数	→ 単位分数と関連付けて真分数、仮分数の意味や大きさが理解できない。
第3学年	1けたをかけるかけ算の筆算	→ 筆算の手順の意味を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができない。
第2学年	10000までの数	→ 十進位取り記数法について、位ごとのまとまりとして正しく理解できない。
第1学年	100までのかずのけいさん	→ 十の位を1が10集まったまとまりとしてとらえられない。

## つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

### 千、百、十、一の束を、数に合わせて位ごとに箱に仕分ける活動

活動のねらい▶ 位ごとのまとまりを意識して、数に表すことができるようにする。

ここが  
ポイント

千、百、十、一の束の絵を複数用意し、位ごとに仕分ける活動をすることで、「三千だから、千の束が3つだね。」などと、位ごとのまとまりを意識して、数に表すことができるようにする。

#### 期待される児童の姿



三千だから、千の束が3つだね。

三千九百二って、十の位の箱には何も入れないから0を書かないといけないんだ。

※三千九百二や3902など、漢数字や数字それぞれについて、同様の活動を行う。

※仕分けたものをヒントに、漢数字を数字に、数字を漢数字に表す活動を行う。

位と数（千、百、十、一）のまとまりを結び付けて考えることができるようになる。

## つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

## ★主体的な学びにつながる実践

### 千円札と百円玉の絵を用いた両替ごっこ

活動のねらい▶ 100を単位として、何千何百の数を考えることができるようにする。

ここが  
ポイント

「3000円は百円玉が30枚なので～」と説明しながら両替ごっこをすることで、問題を解く時にも、100を単位として、何千何百の数を考えることができるようにする。

#### 期待される児童の姿



3200円を百円玉に両替してください。

3000円は百円玉が30枚なので、百円玉32枚です。

100を単位として考えることができ、「百の〇個分は0をふたつ付けばいい」と考えている児童も、意味と合わせて理解することができるようになる。

$$ax + ay = a(x + y)$$